

マミーと呼ばれる日が来るとは

第7期 OG 松本 奈保子

皆様、お久しぶりです。前回のエッセイ寄稿が結婚報告の2018年だったのですが、あれから3年経ち、今では2歳児の母親になりました。

◆オーストラリアと新型コロナ

新型コロナが発生して以来、オーストラリアは出国も入国も原則禁止の鎖国状態にあり、その厳しい水際対策のおかげで感染者数もほぼゼロの状態が一年近く続き、マスクとも無縁の生活をしていたのですが、また今年6月にデルタ株の流行で4か月近くのロックダウン、最近ではオミクロン株大流行で次に日本に帰れるのはいつになることやら…という感じです。ただ、元々幼児がいるとパーティーやら旅行やらは難しいので、我が家としてはロックダウン中も生活はいつもと特に変わらず、逆に在宅勤務が当たり前になってラッキーでもあったので、マイナスの影響はあまりなかったようです。

◆息子がかわいすぎてつらい

コロナ禍直前の2019年11月に産まれた息子リオナルド（理央）は、現在2歳になり、それはもうカワイイ盛り。小柄な両親から産まれてきた巨大児は、2歳にして既に3歳児並みの体格である一方、とても穏やかな性格で、「マミー、ハギー（抱っこ）？」と事あるごとに15キロの巨体でのしかかってきます。母親の呼び方は、気恥ずかしさもあり日本風に「ママ」と教えていたのですが、どこで学んできたのか、いつのまにか英語の「マミー」呼びに…。可愛すぎて呼ばれるたびに心臓がギョツとなるほど悶絶しています。



この1年間で息子の写真は200枚以上あったのに、自分が写っているのは5枚のみ

ちなみに海外在住者のバイリンガル教育には日本人の親がずっと日本語で話すことが重要なようなのですが、これが意外と難しく、ルー大柴のように Japanese sentence の中に時々 English words を insert するようなヘンテコ文章になってしまうので、最近は日本語で話した後すぐに英語で同時通訳するような形で話したりと試行錯誤しています。学生時代はずっと英語が苦手だった自分が、まさか日本語より英語の方が楽と感じる事態になるとは…。(もちろん大人同士の会話では英語はまだぜんぜんネイティブレベルではないのですが、なぜか子供と話す時だけ日本語がうまく出てこないのです。不思議)

とまあ、親がこんな状態なので息子も当然9割方英語有利で、辛うじて話せる日本語もアクセントが英語話者のそれ、という感じです。ハーフに産まれたからと言って自然にバイリンガルになる訳ではないのは当たり前ですが、親も相当の努力が必要だということを実感しました。

◆働くマミー

最後に仕事のことを少し。産後6か月でパートタイムで復帰し、今は在宅勤務メインでほぼフルタイムで働いています。仕事は変わらず経済ニュース関連で、今は水素や再生可能エネルギー、農業や不動産部門のテクノロジーなどを専門に記事やレポートを書いたりしています。PCとネット環境さえあればどこでもでき、かつ勤務時間も自由なので、子どもが一人で遊んだりお昼寝をしている隙にガーッと仕上げるというスタイル。オーストラリアの保育園は政府の補助金が半分くらい出るものの、それでも日額1万円近く自腹でかかるので、いかに日数を減らして稼ぐかがポイントで、夫と義両親のサポートのおかげで何とかうまくやっています。

今はまだ日本側の隔離規制が厳しく一時帰国の目途がたっていないのですが、規制が緩くなった暁にはワーケーションで仕事をしつつ、数カ月単位の一時的帰国も叶うかもしれません。長らく行けていなかったリアルでの小野ゼミOB・OG会に参加できる日も来るかもしれないと、楽しみにしています。



毎日カワイイの最高記録を更新する2歳児